

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和泉短期大学
設置者名	学校法人 和泉短期大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス(授業計画)の作成過程 教務委員会にて「シラバス作成要綱」を編纂。3つのポリシーの内、DP(ディプロマポリシー)、CP(カリキュラムポリシー)に沿って、授業コンセプトを作成する方向付けを行っている。この要綱を全教員(非常勤含む)に配布し、周知を図っている。なお、2019年度より、①シラバス内に「実務経験とその年数」を記述する欄を設けた。②授業内容 15回の各回に事前事後学習内容の具体的提示を促す形式に変更し、その目的や記入方法の詳細を記す、などシラバスの改善を図った。 さらに、教員より提出されたすべてのシラバスを、「シラバス作成要綱」に沿っているか教務委員全員で点検し、学長に提出し、必要が生じた場合は担当者に訂正を依頼している。 ・シラバスの作成・公表時期 前年度 12 月下旬に教授会においてシラバス作成要綱をもって全教員(非常勤含む)に作成依頼。1月末までに提出し、2月～3月に点検・修正。3月末にWEB上に掲載、公表している。 	
授業計画書の公表方法	https://www.izumi-c.ac.jp/introduction/outline/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の評価方法についてはシラバスに明示している。</p> <p>また、単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施については、各学生の学修成果に基づき、あらかじめ学生に配付している冊子『学びのハンドブック』の「単位認定」の項目に、①単位認定の条件、②評価方法、③成績評価、等々について記載しており、その成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。</p> <p>・評価方法</p> <p>評価の方法には次の種類がある。</p> <p>(1) 筆記試験、(2) レポート試験、(3) 実技試験、(4) その他</p> <p>※試験に関する不正行為を行った者は、試験当該科目を失格とする。</p> <p>・成績評価</p> <p>履修を登録し、試験に合格すれば単位が与えられる。成績の評価は以下のとおり。</p> <p>S A (90～100 点) 目標の成果が高く認められる、特に優秀な成績</p> <p>A (80～89 点) 目標の成果が認められる、優秀な成績</p> <p>B (70～79 点) 目標の成果が一応認められる成績</p> <p>C (60～69 点) 合格と認められる最低の成績</p> <p>D (59 点以下) 合格とは認められない成績</p> <p>E (失 格) 出席日数の不足</p>													
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>													
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>・G P A等の客観的な指標の具体的な内容(指標の算出方法など)</p> <p>1) GPAの算出方法</p> <p>成績の評価及び各評価に与えられる GPA は、以下のとおり定めています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>SA</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>DとE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GPA</td> <td>4.0</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>		成績評価	SA	A	B	C	DとE	GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
成績評価	SA	A	B	C	DとE								
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0								
<p>2) GPAの種類</p> <p>GPAには、当該学期における GPA (以下「学期 GPA」という。)と全在学期間における GPA (以下「通算 GPA」という。)の二つがある。</p> <p>※GPAの算出は、小数点第3位以下を切り捨てるものとする。</p> <p>【学期 GPA を算出する計算式】</p> <p>(当該学期に評価を受けた各授業科目で得た GP ×当該授業科目の単位数)の合計 <div style="text-align: center;">÷ 当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計 = 学期 GPA</div> </p> <p>【通算 GPA を算出する計算式】</p> <p>((各学期に評価を受けた各授業科目で得た GP ×当該授業科目の単位数)の合計)の総和 <div style="text-align: center;">÷ (各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計)の総和 = 通算 GPA</div> </p>													
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>新年度初めのオリエンテーション時に学生に配付の冊子『学びのハンドブック』に記載。</p>												
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>													

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) …以下を定め公表している。</p> <p>本学の建学の精神 (キリスト教信仰に基づく教育と人格形成)、スクールモットー (愛と奉仕) に基づくカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士 (児童福祉学) の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、基礎学力、幅広い教養、礼節を身につけ、多世代にわたる人々の人権を尊重できる。 2. 保育・福祉に関する専門的な学修を通じて、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 3. 保育・福祉の専門的な価値観、知識・技能を修得し、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力を身につけている。 4. 保育・福祉の専門職として多角的な視点を持ち、共生社会実現に向けて主体的かつ自律的に学び続け、愛と奉仕の精神を実践できる。 <p>・卒業に必要な単位</p> <p>本学に2ヶ年以上在学し、次の単位を修得した者に、卒業を認定します。</p> <table border="0"> <tr> <td>教養教育科目</td> <td>10 単位以上</td> <td>[卒業必修 8 単位含む]</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td>52 単位以上</td> <td>[卒業必修 6 単位含む]</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>62 単位以上</td> <td></td> </tr> </table>		教養教育科目	10 単位以上	[卒業必修 8 単位含む]	専門教育科目	52 単位以上	[卒業必修 6 単位含む]	合 計	62 単位以上	
教養教育科目	10 単位以上	[卒業必修 8 単位含む]								
専門教育科目	52 単位以上	[卒業必修 6 単位含む]								
合 計	62 単位以上									
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.izumi-c.ac.jp/guardian/lesson/?id=guardian01									